

第38回 日本医療福祉設備学会 併設展示会

HOSPEX JAPAN 2009

日本慢性期医療協会セミナーのご案内

謹啓 初秋の候ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当協会では標記「第38回日本医療福祉設備学会 併設展示会 HOSPEX JAPAN 2009」において、「日本慢性期医療協会セミナー」として、3つのテーマにてセミナーを開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

謹白

日本慢性期医療協会

会長 武久 洋三

会 場 東京ビッグサイト・東展示棟 会場

東京都江東区有明 3-21-1 TEL:03-5530-1111 (代表) FAX:03-5530-1222

ゆりかもめ「国際展示場正門駅」下車(新橋より約30分)

定 員 1セミナーにつき 先着200名

参加費 日本慢性期医療協会会員：無料

非会員：各セミナー 1,000円/人

参加費は、お釣りが出ませんようにご準備ください。

申込方法 申込用紙に必要事項を記載いただき、FAXにて日本慢性期医療協会事務局へ送信下さい。参加票をお送り致します。

参加票について 参加票は必ず当日持参下さい。HOSPEX JAPAN 2009の入口にて提示が必要です。セミナー受付にて参加票を確認後、資料をお渡し致します。

(参加票をお忘れの場合は、HOSPEX JAPAN 2009への入場料として別途1,000円が必要となりますのであらかじめご了承ください。)

申込締切 平成21年10月30日(金)

申込・問合せ先 日本慢性期医療協会

TEL 03 - 3355 - 3120 FAX 03 - 3355 - 3122

セミナー 「医療現場における IT アレルギー克服の 4 つの処方箋」

日時 平成 21 年 11 月 11 日(水) 10:30 ~ 12:30

「医療区分」「ADL 区分」が導入され、入院患者様の重症化への対応による、医療・看護・介護業務の効率化やチーム医療におけるシームレスな情報共有と連携が強く叫ばれる昨今、個々の施設においての、IT 環境の整備が急務とされている。

しかし、「職員の IT アレルギー」が主な原因により、導入に対し二の足を踏んでしまう事が少なくない。また、「IT アレルギー」は特に看護職・介護職に顕著にみられ、アレルギーが高じた離職傾向もみられる。

今回のセミナーでは、そういった「職員の IT アレルギー」に焦点を当て、5 名の講演者に、各方向性からの視点・取り組み・対策を発表して頂き、御来場された方々に対し、今後、IT 環境の整備を行うにあたり、ぶつかるであろう「IT アレルギー」という大きな壁への問題解決とチーム医療としてのシームレスな情報共有・医療連携の実現に役立てて頂きたい。

プログラム

座長 富家 隆樹 (日本慢性期医療協会 IT・広報委員会委員長)

講演 「ICT は医療を救えるか」

山路 雄一 (富士通株式会社地域ビジネスグループ中央支社長)

現在 140 施設からなるユーザーフォーラムを主催し、病院への導入後のサポートにも力を入れ、より良い電子カルテ・IT 環境構築に向けてベンダー側の視点から「IT アレルギー克服」のヒントを探る。

講演 「20 分で解決!! IT アレルギーからの脱却

- 誰でも使い現場で役立つ安価で効率的・効果的・魅力的なシステム -

隈本 寿一 (小倉第一病院 MIT 部部长)

小倉第一病院は、80 床のケアミックス病院で、透析を中心とした診療を行っている施設。いち早く医療業界で e-Learning の導入を行い、2005 年には日本 e-Learning 大賞を受賞。職員教育に IT を繋げ成果を挙げている施設で、IT リテラシーに年間 100 時間も費やし、看護師の離職率は 7.0% と業界トップを誇る。

講演 「IT アレルギー克服のために ~ 病棟事務員の活用 ~」

尾崎龍太郎 (博愛記念病院システム課)

療養病床でいち早く電子カルテを導入。大手メーカー製のものではなく、慢性期医療の現場業務にフィットした電子カルテを採用・運用に成功している。

また、電子カルテ導入に伴い、各病棟に数名の PC 入力専門職員を配置するなど運用面でも工夫が見られ、「IT アレルギー」に対して万全の体制を敷いている。

講演 「医療・介護の記録の継ぎ目をなくした

オールインワン電子カルテの導入と IT アレルギー克服事例」

原 栄嗣 (鹿島病院企画経理課係長)

深田 倍生 (株式会社テクノプロジェクト医療システム部担当部長)

平成 18 年の診療報酬改定で導入された、医療・ADL 区分による入院料算定の開始と同時に電子カルテを導入した。当病院が電子カルテを導入した際、患者・利用者に対する医療サービス、介護サービスの記録を医療・介護保険事業の垣根を越え、それぞれに対しセキュリティ機能を有しながら同じ画面上に共有できる特長を持たせ、業務間におけるシームレスなシステムを構築する事に成功した。

当院ではこの電子カルテの導入に際し「使いやすいシステムの開発」「コンピューターそのものの基礎教育の工夫」「システム操作訓練の工夫」「システムを使用する職員同士で操作のフォローができる環境の構築」に重点を置き「IT アレルギー」への対策を講じた結果、電子カルテ導入を理由にした退職者は発生しなかった。

セミナー 「療養病床経営戦略セミナー ～日本の医療を支える慢性期医療～」

日時 平成21年11月12日(木) 10:30～12:30

政権交代が現実となった今、療養病床再編政策も根本的な見直しが必至の情勢である。当会としても、この機会に改めて「良質な慢性期医療がなければ、急性期医療は成り立たない」という当会の基本方針のもと、日本の医療に必要な不可欠な療養病床の様々な機能と役割について発信していきたい。このセッションでは、特に今後急速に増え続けるとされる在宅療養を支援するための重要な位置づけとしての療養病床機能について、改めてその意義・実践方法等を、多くの医療従事者や医療・介護関係者に対しご理解頂き、情報共有していくことを目的としたい。

プログラム

基調講演「次期診療報酬改定に向けた療養病床の方向性」(仮題)

武久洋三 (日本慢性期医療協会会長)

近々に迫った次期診療報酬改定について、特に慢性期医療の立場から協会としての要望・方針も含めてお示し頂くと共に、改めて今後の療養病床の行方について、政権交代による予測も含めて、そのあるべき方向性を大いに語って頂きます。

特別講演「地域支援型医療拠点としての療養病床の意義と実践」

池端幸彦 (日本慢性期医療協会在宅連携委員会委員長)

在宅支援の立場から、地域支援型医療拠点としての今後の療養病床の在り方について、その意義と実践方法について自院例も含めて具体的に提示して頂きます。

セミナー 「高齢者に望まれるジェネリック医薬品とは？」

日時 平成21年11月13日(金) 10:30～12:30

現在、厚生労働省はジェネリック医薬品の使用推進並びにその適正使用を求めている。しかし、ジェネリック医薬品の使用は、欧米と比較すると本邦ではまだまだ少ない。

また、ジェネリック医薬品は、先発医薬品の特許切れに伴い数社から同時に発売される安価な代替医薬品という位置づけでしかない。

「服薬能力の低下した高齢患者」に適したジェネリック医薬品は存在しないのか？

慢性期医療における薬物療法を支えるため、病院・診療所・施設等の医療チームと、製薬・医薬品開発者の間で協働すべきことは何かを共に考え、「高齢者に望まれるジェネリック医薬品」の創造について意見を交わしてみたい。

プログラム

情報提供「高附加価値型GE製品による患者様貢献を目指して」

田中雅子 (エルメッドエーザイ株式会社商品企画部長)

講演「患者が医療参加するジェネリック医薬品について」

賀勢順司 (月刊ジェネリック編集長)

パネルディスカッション

司会 高野喜久雄 (日本慢性期医療協会薬剤委員会委員長)

「療養病床における薬剤使用に関するアンケート」報告

棗 則明 (総泉病院薬剤科長)

「ジェネリック医薬品に求めること」

岡村正夫 (三条東病院薬局長)

「当院でのジェネリック医薬品採用の現状」

山崎 浩 (永生病院薬剤科長)

「高齢者の服薬支援」

賀勢泰子 (鳴門山上病院診療協力部長)